

# 川入・中撫川(市道)遺跡発掘調査 現地説明会資料

と き：平成13年1月13日(土)

ばしょ：川入中撫川遺跡発掘調査現場

## はじめに

川入・中撫川遺跡は岡山市川入、中撫川にまたがる大遺跡です。以前には山陽新幹線建設や新幹線測道の建設に伴って発掘調査され、岡山県南部の代表的遺跡として広く知られています。このたびは都市計画道路吉備環状線(市道中撫川平野線)建設に伴い発掘調査を実施しました。2年間にわたる発掘調査で弥生時代前期から中世に至る各時代の遺構・遺物が見つかっています。



調査地点の位置と周辺の遺跡

1, 川入遺跡 2, 矢部南向遺跡 3, 惣爪廃寺 4, 楯築弥生墳丘墓 5, 上東遺跡 6, 東山遺跡  
7, 中山茶白山古墳 8, 矢籐治山弥生墳丘墓 9, 尾上車山古墳 10, 石船塚古墳

## 1 , 遺跡の位置と周辺の様子

岡山市南部の平野には、かつて「吉備穴海」と呼ばれる海がひろがっていました。足守川がこの海にそそぐ河口付近に当たるのがこの遺跡です。足守川流域は上東遺跡（倉敷市上東）や加茂遺跡、矢部南向遺跡、津寺遺跡など弥生時代～古墳時代にかけての大遺跡が密集し、弥生時代後期には楯築弥生墳丘墓、古墳時代には造山古墳をはじめとする巨大な墳墓が数多く築かれ、名実ともに古代吉備の中心地です。川入・中撫川遺跡は其中で、立地などから港のような役割を果たした遺跡ではないかと言われています。

## 2 , 発掘調査でわかったこと

### ( 1 ) 弥生時代前期～中期（およそ 2 , 5 0 0 ～ 2 , 0 0 0 年前）

発掘調査で見つかったもっとも古い遺物は、弥生時代前期の土器片です。はっきりした遺構は確認されていませんが、このころから人々がこの地で生活を始めたようです。弥生時代中期になると遺物や生活の跡が増えますが、これらは法万寺 調査区の東よりに集中しています。ムラの中心はどうやら調査範囲より北東側にあったようです。

### ( 2 ) 弥生時代後期末～古墳時代初頭（およそ 1 , 8 0 0 ～ 1 , 7 0 0 年前）

出土遺物が爆発的に増加します。調査範囲はムラの縁辺部にあたるようで、水路が何本も、何度も掘り直されながらほぼ南北に存在しています。水路より東側では住居跡や井戸などの遺構が見つかります。遺物の多くは井戸や水路に捨てられたりしていた土器です。中には網のおもりや製塩土器など海との関わりをうかがわせる遺物もみつかります。



溝群土器出土状況（古墳時代）



竪穴式住居（古墳時代）

### (3) 飛鳥～平安時代(およそ1,200～1,000年前)

調査区のかなり広い範囲に掘建柱の建物が何棟も建てられます。船橋調査区では大規模な井戸も見つっています。出土遺物には小形の海獣葡萄鏡をはじめ、緑釉陶器などの高級陶磁器、軒丸瓦の破片などがあります。特に軒丸瓦は飛鳥時代のもので、吉備では最古の瓦です。しかし、単独で見つかりおりに周辺にこの瓦を葺いた建物があったとは考えにくい状況です。この瓦は近隣では足守川をさかのぼった津寺遺跡(岡山市)や末の奥窯跡(山手村)、遠くは大和(今の奈良県)の奥山久米寺などの古代寺院から同じ文様のものが見つっています。また、末の奥窯跡の製品は大和の豊浦寺に運ばれたことがわかっています。このことから、この瓦も大和の寺に運ばれる途中で何らかの理由でこの地に残されたもののようです。



飛鳥～平安時代の建物群(法万寺区)



飛鳥～平安時代の建物群(法万寺区)



飛鳥～平安時代の井戸



「吉備最古の瓦」



加茂政所遺跡1

加茂政所遺跡の同型瓦



奥山廃寺1 (IIA)

奥山久米寺（奈良県）の同型瓦

